

四、読図については勉強して来たチームとの差がはつきりと出た。但し単位未記入(m、度等)など注意してほしい所もあった。全競技が二十五日終了し午後二時から表彰式が行われた。

東四国へのブロック通過は成年女子二チーム、少年男子三チーム、少年女子二チームである。

◎成年女子総合成績
一位 栃木 二位 神奈川 三位 群馬

◎少年男子総合成績
一位 栃木 二位 神奈川 三位 群馬

◎少年女子総合成績
一位 栃木・山梨 二位 群馬・茨城 三位 群馬

国体予選を終えて

田村 とみ江

今年初めて七月二十三日から二十五日の三日間、国体関東ブロック予選に参加させて頂きました。私は縦走、登攀、踏査のうちの登攀以外の二種目に出場したのですが、山道の恐ろしさを痛感して練習を積んできた訳ですが、結果は三位と、あと一步の所で本大会のキップを手にする事が出来ませんでした。今は終ったんだなという安堵感と、何となくむなしさを感じます。

これから、この経験を無駄にしない事、いろいろな事に取り組みたいと思っております。



S 競技群馬成年女子

九月十一日(土) 富山県警山岳警備隊六名を迎え一倉沢にて合同訓練を実施しました。

訓練の目的は群馬県山岳連盟救助隊のワイヤー操作技術が日本一であり、その技術を学ぶべく来県したのである。当救助隊からは九名の隊員が参加し、ワイヤー技術を披露した。夜は土合駐屯場にて歓迎会を開催し、コミュニケーションを深めた。なお夜の部の準備には沼田山岳会の協力(十名)によって、最高に盛り上がり十分なる歓待



合同訓練

七月四日(日) 恒例の夏季岩場が出来ました。きつと富山県警の救助訓練を東黒沢ハナ毛の滝付近にて実施しました。前夜来の雨もやみ、久しぶりの太陽のぞく絶好の訓練日和であった。新人もベテランもキラリも一つになって、ワイヤー操作技術の修得に全力を投入した。また総隊長西山氏の声が谷間にこだまっていた。あいかわらず部下育成に熱心、ただ感謝・感謝……

九月五日富山県警山岳警備隊との合同訓練の前準備として一倉沢テールリッジにて、ワイヤーはり込み操作訓練を実施した。訓練に熱が入り終了した時は夕方となってしまった。そして反省会が終了した時には一倉はすっかり闇と化した。ほんとうにご苦勞様でした。

岳連短信

九月二十六日(日) 第四回山田昇杯記念登山競走大会が開催される。

九月二十六日(日) 第四回山田昇杯記念登山競走大会が例年の通り川場村武尊山にて開催され、当日は晴天に恵まれ、山田昇記念杯の部、三枝照雄賞の部、一般参加の部に分け、全国から選手

遭難対策部報告

救助隊長 新井 邦光

七月四日(日) 恒例の夏季岩場が出来ました。きつと富山県警の救助訓練を東黒沢ハナ毛の滝付近にて実施しました。前夜来の雨もやみ、久しぶりの太陽のぞく絶好の訓練日和であった。新人もベテランもキラリも一つになって、ワイヤー操作技術の修得に全力を投入した。また総隊長西山氏の声が谷間にこだまっていた。あいかわらず部下育成に熱心、ただ感謝・感謝……

が集まり、健脚を競った。成績は山田昇杯では本県から出場した山田豊選手が昨年につづき二年連続で優勝し、三枝賞でも本県中之条高校の竹淵工選手がやはり昨年につづき二年連続優勝にかがやいた。

細部の報告は次号の嶺呂で報告する予定。

◎第十七回県民登山大会開催
群馬県山岳連盟主催の県民の日、群馬県人口二〇〇万人記念事業第十七回県民登山大会が十月三十一日(日)に甘楽郡妙義町表妙義山を会場に開催される。当日はA・B・Cの三コースに分れて紅葉の妙義山登山を楽しむ。◎第四十八回団体(徳島県剣立・祖谷山系)に本県より成年男子、少年男子出場。

◎各部今後の予定
遭難対策部
十二月十四日 冬山合宿検討会
一月十八日 冬山合宿報告会
三月六日 隊員救助訓練登山指導部
十一月十四日 ロックフェスティバル(榛名山山岳石)
二月六日 氷雪技術講習会(会場未定)
三月十三日 雪上生活技術講習会(谷川岳大尾根)
十二月 サガルマータ南西壁登山頂予定
三月十九日、二十日 日山協海外登山技術研究会

富山県警山岳警備隊との合同訓練

七月四日(日) 恒例の夏季岩場が出来ました。きつと富山県警の救助訓練を東黒沢ハナ毛の滝付近にて実施しました。前夜来の雨もやみ、久しぶりの太陽のぞく絶好の訓練日和であった。新人もベテランもキラリも一つになって、ワイヤー操作技術の修得に全力を投入した。また総隊長西山氏の声が谷間にこだまっていた。あいかわらず部下育成に熱心、ただ感謝・感謝……

第49号 平成 5 年 10 月 29 日
発行者 群馬県山岳連盟 〒371 前橋市大手町1丁目1-1 群馬県庁観光課内 (0272) 23-1111
TEL 集 群馬岳連編集委員 会 一 編 集 責任者 野 順
印刷所 森 田 印 刷
(定価 1部 100円)

「母なる大空」サガルマータの冬へ再び

登山隊長 八木原 啓明



「敗れる勇者たちよ、山で会えンナプルナI峰南壁の冬期初登攀。我が一番輝く場所である。山でまた会おう。」

ふりむけばサガルマータ。いつかその頂上でまた会おう。

「敗れる勇者たちよ、山で会えンナプルナI峰南壁の冬期初登攀。我が一番輝く場所である。山でまた会おう。」

ふりむけばサガルマータ。いつかその頂上でまた会おう。

天の来襲があったとはいえ、出来た超高所でも簡単に組み立て易いように工夫がされた。

「ヒマラヤの風」である悪天は、板も薄手のベニヤにアルミをコーティングし、折りたたみ式としたので、小さくなり、前回は扱えなかった。い易くなり、一セットで約十五kg位軽くすることができた。

そんな経験豊富な登山家、ヒマラヤに挑戦しようとする者、自分も一泊一泊三泊を登頂させるためだけに、一五〇kg余りを最

これは前回の九一〜九二年冬のサガルマータ南西壁登山を振り返ってしまふ、そう考え続け、言い続けたスポニチ特派員・長久保豊のけながらの山登りの大きな区切りになるはずの登山がサガルマータ「男たちの決断」サガルマータ、92「冬」の最終章のしめくりの言葉である。

自らの力の無さ、肺腎衰無さになんとも情無い気持ちになってB Cからクインプ水河のモレリンを下り、帰国したが、あの厳寒、烈風の南西壁をこの失敗のままあきらめることはできなかった。

これは前回の九一〜九二年冬のサガルマータ南西壁登山を振り返ってしまふ、そう考え続け、言い続けたスポニチ特派員・長久保豊のけながらの山登りの大きな区切りになるはずの登山がサガルマータ「男たちの決断」サガルマータ、92「冬」の最終章のしめくりの言葉である。

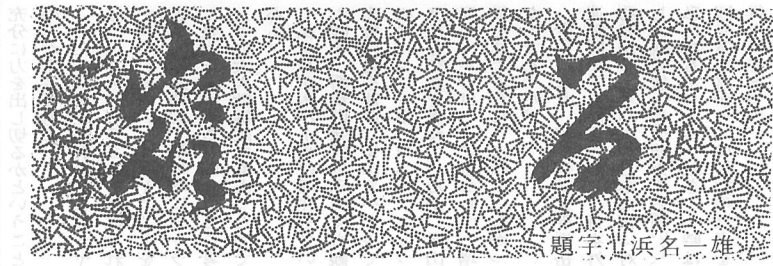
自らの力の無さ、肺腎衰無さになんとも情無い気持ちになってB Cからクインプ水河のモレリンを下り、帰国したが、あの厳寒、烈風の南西壁をこの失敗のままあきらめることはできなかった。

燃料や食料やテントについては、私共としては超高所での隊員の行動の目減りを考慮しておくならば、実動登山隊員は十名必要である、としてネパール観光省に三名と決定して発表した。一シーズン、

これまでもいく度かの挫折、失敗のたびに繰り返されてきた反省の思いや言葉が思い出された。山の大きさ、登攀ルートの困難さ、気象条件は百も承知である。それらに取って立ち向かって、ヒマラヤ登山の新しい一ページを開こう、と考えて実行して来たのが、一九七一年春のダウラギリIV 群馬県山岳連盟としての、我々自

これまでもいく度かの挫折、失敗のたびに繰り返されてきた反省の思いや言葉が思い出された。山の大きさ、登攀ルートの困難さ、気象条件は百も承知である。それらに取って立ち向かって、ヒマラヤ登山の新しい一ページを開こう、と考えて実行して来たのが、一九七一年春のダウラギリIV 群馬県山岳連盟としての、我々自

テント台は境町山の会々員の全員の協力を得てチタンパイプを、最後まで確保しきるか、いかに八〇〇mという超々高所で七名が



一九七八年のダウラギリI峰、南東稜初登攀や一九八七年冬のア算、集大成と言えるような登山で

一九七八年のダウラギリI峰、南東稜初登攀や一九八七年冬のア算、集大成と言えるような登山で

一九七八年のダウラギリI峰、南東稜初登攀や一九八七年冬のア算、集大成と言えるような登山で

